

大学院共通科目 0A00506 「考える」動物としての人間 東西哲学からの考察

ノーベル生理学・医学賞受賞者の山中伸弥先生はこのパンデミックに際してご自身のブログに次のように書いておられます。

「私は、科学的な真実は、「神のみぞ知る」、と考えています。新型コロナウイルスだけでなく、科学一般について、真理（真実）に到達することはまずありません。私たち科学者は真理（真実）に迫ろうと生涯をかけて努力していますが、いくら頑張っても近づくことが精一杯です。真理（真実）と思ったことが、後で間違いであったことに気づくことを繰り返しています。」

「哲学」も「真理（真実）」を求める学問です。また皆さんのそれぞれの学問においても「真理（真実）」を探求していると思います。それはどのようなものなのでしょう、それに到達することは不可能なのでしょう、パンデミックの続く中、私たち自身の研究を見直し、人文社会科学研究群人文学学位プログラムの教員とともに考えてみましょう。

2月17日（木）・18日（金）

2～6限 1C306

対面・オンライン併用の予定です

TWINS履修登録期間

(2021年12月15日から2022年2月17日まで)

問合せ先:教育推進部教育推進課教務グループ

E-mail : ggec@un.tsukuba.ac.jp

プログラム（予定）

17日 （西洋哲学からの考察）

プラトンにおける神と知（土井裕人）

旧約聖書における人間・生命・精神（秋山学）

神は $1 + 1 = 3$ にすることができるか－西洋近世初期における神学的絶対主義（theologischen Absolutismus）について（津崎良典）

18日 （東洋哲学からの考察）

古典インドにおける情報理論（志田泰盛）

生と死の境－仏教における実存（吉水千鶴子）

生はわたしだけの物か？－中国哲学からの展望（井川義次）

この生は生きるに値するか－日本の思想家との対質（板東洋介）